

第43回 うつのみやこども賞だより

令和8(2026)年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『異世界フルコース』

廣嶋 玲子／作 しまりす ゆきち／絵 (KADOKAWA)



令和8年 6月 7日

～読んだ本の感想より～

- 異世界で危険な目にあってあきらめずにやっている姿を見て、自分だったらおく病で勇気がないから啓介のようにできないな、すごいと思った。
- おいしいものが何もない世界で、啓介が食べられないものを料理していったところがおもしろかったです。
- 悩みながら一生けん命に食材を探す啓介がかっこよかった。
- 人との関わり合い、何ごとにもチャレンジだということを食材集めで表現していて面白い。
- この本を読みながら、おもわずお腹がなっていました。「ハニーーツのジャム入りまんじゅう」など、おいしそうなお料理がたくさん出てきて、とてもおもしろい本でした。
- 元の世界にはない食材を使ってフルコースを作るところがすごいと思いました。
- 自分ならこんな世界に行きたくないと思ったけれど、違う世界で食ざいを見つけて新しい事に挑戦するのはすごいと思った。

『エイト!』

嘉成 晴香／作 早川 世詩男／絵 (あかね書房)

- 最初は、嫌だな…やりたくないと考えていても、後から、やってよかったなと思うこともあるということであらためて知ったので、私も前向きに生きていこうと思いました。
- エジプトに行く場面は見どころで、私は海外に行ったことがなくても物語として楽しむことができました。エイトとの友達関係もぜひ読んでもらいたく、おすすめしたいポイントです。
- 日本では当たり前のことがエジプトでは当たり前ではないことがあって、びっくりした。
- エジプトアラビア語を少し知ることができる! 言葉が通じなくても伝わることに感動した。
- エジプトと日本の文化の違いが分かった。
- ぼくも外国に行ったことがあるので、主人公の永都君と思いが重なったところがありました。

『読書会を魔女といっしょにやってみたら』

濱野 京子／作 米田 絵理／絵 (あかね書房)

- 主人公が友達とぶつかりながらも読書会を続け、みんなで夢をかなえるために、それぞれが活やくして成長していく姿に感動した。
- これからは、稀桜のように「言いすぎた」と思うことがあっても、すぐに周りの人と話し合い、よりよい楽しい生活にしたいと思った。
- 積極的な主人公の稀桜を思わず応援したくなります。特に「悪いのは、わたし?」で、色々なめ事にふり回されて落ち込む稀桜をはげましたくなりました。
- みんなで意見を出し合って、「ブックススペース☆魔女の庭」を作るなんてすごいなと思いました。
- 「ブックススペース☆魔女の庭」みたいなのがあったら、自分も行ってみようと思った。

『てまりのナゾほどこ帳』

荒川 衣歩／著 (講談社)

- この本は昔の言葉や昔の言い方で書いてあったので、少し難しかったです。けれど、分からない言葉も調べてみると、自分も昔の世界に行ったみたいで楽しかったです。
- まるで昔の日本と一緒にタイムスリップした気持ちになった。
- 自分だったらできないことも、てまりは諦めずに挑戦していてすごかった。
- 長崎とオランダが昔からつながりがあったなんて、おどろいた。
- 頭の中で考えたものをちゃんと形にできるてまりに感心しました。